

輸出事業計画

※申請者名：パートナーズ輸出コンソーシアム、品目：鶏卵

1. 輸出における現状と課題

【現状】

・シンガポールでは、衛生面の観点から卵は加熱して食べるのが一般的であり、日本のように生卵を食べる文化がなかったが、近年の日本食ブームにより生卵を使った料理などが注目を集め、日本の衛生的で生食可能な鶏卵の需要が高まっている。日本からシンガポールへの輸出額は平成29年度2,770千円、平成30年度12,645千円、令和元年度30,259千円、令和2年度113,712千円、令和3年度141,976千円、令和4年度132,764千円、令和5年度156,704千円と増加している。シンガポールへの鶏卵輸出の規制をクリアするため、輸出鶏卵生産農場の施設認定を取得し、卵殻に印字するための機器も導入した。

【課題】

・輸出する際のパッケージの表示規制等を調査中であり、現地取引先の開拓や鶏卵市場の現状把握も必要である。また、エムイーシーフーズ産鶏卵の知名度がないため、現地でのPR活動が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組内容】

- ・シンガポールに輸出する際のパッケージの表示規制等を調査予定。
- ・GPセンターにおいて表示規制等に適合した製造体制を構築予定。
- ・現地事業者と商談会を実施予定。
- ・現地の市場調査及びエムイーシーフーズ産鶏卵のPR活動を実施予定。

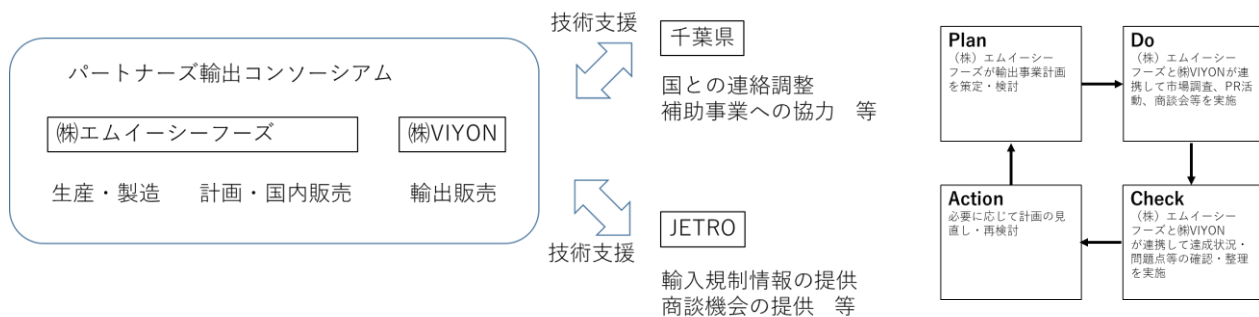
【現在の商流の状況】

現在未取引

【今後の商流の展開】

(株)エムイーシーフーズ → (株)VIYON → シンガポール輸入事業者 → 現地量販店等 → 一般消費者

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標年（令和6年度）
輸出額（円）	0	10,000,000
輸出量（t）	0	40
輸出先国	シンガポール	シンガポール